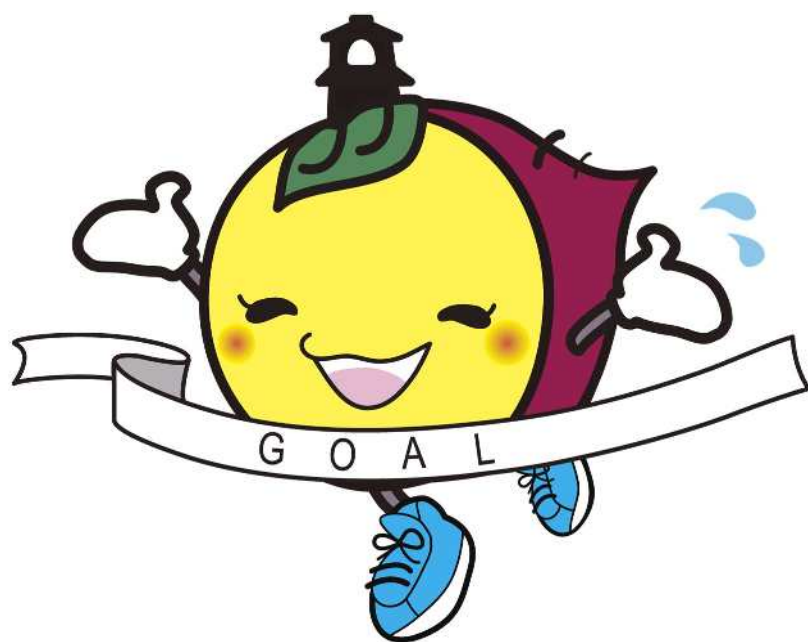


# 令和7年度 研究集録

川越市教育委員会委嘱学校研究  
川越市教育委員会指定学校研究



川越市マスコットキャラクター ときも

川越市教育委員会



## あいさつ

川越市教育委員会教育長

新保 正俊

令和7年度の学校研究の成果を、ここに「研究集録」として刊行する運びとなりました。川越市教育委員会委嘱学校研究校及び指定学校研究校において、校長先生を中心とした全教職員が、子どもたちの健やかな成長を願い、一丸となって研究に取り組まれたことに、心から敬意と謝意を表します。

現在、私たちの社会は生成AIをはじめとする急激な技術革新や予測困難な社会情勢に直面しています。こうした中、一人ひとりが「人生100年時代」を豊かに幸せに生き抜き、持続可能な社会の創り手となっていくためには、自らのよさを認識し、多様な他者と協働して新たな価値を創造する資質・能力を育むことが、これまで以上に重要となっています。

本市においては、本年度を最終年度とする「第三次川越市教育振興基本計画」の基本理念「生きる力を育み未来を拓く川越市の教育」のもと、「志を高くもち、自ら学び考え、行動する子ども」の育成に全力を注いでまいりました。その中核を成す施策が、子どもたちの学びに向かう力と自己肯定感を高める「川越市小・中学生学力向上プラン」であり、学びの本質を授業において具現化するための指針である「川越授業スタンダード」です。

本年度は、これらの方針に基づき、各学校が創意工夫を凝らした授業改善の「集大成」を体現した一年でありました。各研究校の実践報告において、一人一台端末を効果的に活用して自らの学びを調整する姿や、対話を通して多角的な視点を得て学びを深化させる姿が随所に見受けられます。これは、教職員一人ひとりが「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点を常に意識し、子どもたちの主体的な変容を導き出そうと、情熱をもって取り組まれた証であります。

次年度からは、新たに「ともに学び続ける力で未来を拓く川越市の教育」を掲げる「第四次川越市教育振興基本計画」へと歩みを進めます。第三次計画で築き上げた「自ら学び、考え、行動する力」という強固な土台の上に、多様な他者と対話し理解し合う力を積み上げ、生涯にわたって学びを更新し続ける子どもたちを育ててまいります。本集録に収められた貴重な研究成果が、各学校における今後の教育活動の羅針盤となり、本市教育の更なる質的向上に寄与することを確信しております。

結びに、研究の推進に多大なる御尽力をいただいた各学校、温かく支えてくださった地域・保護者の皆様、並びに熱心に御指導を賜りました関係各位に深く感謝申し上げ、挨拶といたします。

# 目 次

## 【委嘱学校研究〈2年次〉】

### 中央小学校

- 「一人一人の花を咲かせ、未来を創る児童の育成」・・・・・・・・・・ 1  
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

### 芳野小学校

- 「進んで思いを伝え合い、協働する芳野っ子の育成」・・・・・・・・・・ 5  
～自他のよさを認め合い、高め合える学級活動の実践を通して～

### 寺尾小学校

- 「学習意欲を高め、自分の考えを表現できる児童の育成」・・・・・・・・・・ 9  
～児童の発達段階や実態に応じた算数科指導の工夫～

## 【委嘱学校研究〈1年次〉】

### 川越第一小学校

- 「学びを楽しみ、自らを高め続ける児童の育成」・・・・・・・・・・ 13  
～挑戦～

### 牛子小学校

- 「協働的に学びを深める児童の育成」・・・・・・・・・・ 17  
～主体的な伝え合いを通して～

### 高階西中学校

- 「ICTを活用し、川越市小・中学生学力向上プランで目指す生徒の  
主体的・協働的で深い学びの実現」・・・・・・・・・・ 21  
～理解・共有、定着、深化のスパイラルにICTを～

**【指定学校研究】**

高階西小学校・高階西中学校

「GIGA スクール環境下における

川越市小・中学生学力向上プランを用いた授業改善」・・・25

高階小学校・高階北小学校・高階南小学校・高階中学校

「学校安全総合支援事業」・・・29



## 「一人一人の花を咲かせ、未来を創る児童の育成

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

川越市立中央小学校

### 研究のポイント

- 子どもが主体的に学ぶことができるようにする
- これまでの教師の指導を子どもの学びに転換する
- 個に応じた指導⇒個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 課題解決に向けて進んで考え、学びを深める児童の育成
- 他者とともに解決方法を考えたり、新たな学びを創ったりする児童の育成

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

本校の児童は、学力は高い児童が多いが、二極化している。また、他者とのコミュニケーションや関わり方が苦手な児童や自己肯定感が低い児童が見受けられた。しかし、学習の仕方など、見通しがもてると自信をもって意欲的に取り組める児童が多い。そこで自他のよさや可能性を大切に、多様な他者と協働し、未来を創る児童を育成することをねらいとした。そして個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることにより、主体的・対話的で深い学びを実現し、児童の資質・能力の育成を目指していくこととした。

### (2) 研究主題設定の理由

本校の目指す学校像は、「児童一人一人のよさを活かし、その子その子の花を咲かせる中央小学校」である。その実現のため、研究主題を「一人一人の花を咲かせ、未来を創る児童の育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～」とした。

『一人一人の花を咲かせ』とは、児童個人に視点を当てたものである。自分にあった学び方で主体的に取り組む、自分のめあて・目標を達成することによって、充実感や満足感を味わせ、自分の価値を認識し、成長できるようにする。

『未来を創る児童』とは、他者との関わりに視点を当てたものである。急激に変化するこれからの社会を生き抜くためには、多様な他者と協働していくことが不可欠である。未来を生きる児童に、他者との協働のなかで成長してほしい、共に輝く未来を創ってほしい、という願いを込めて、『未来を創る』と設定した。この視点では、他者と協働しながら自分自身の成長につなげていくことを意識させる。協働的な学びを通して自分自身を高めたり、学びを深めたりできるような児童の育成を目指すこととした。

研究仮説を、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させれば、

(ア) 課題解決に向けて進んで考え、一人一人の学びを深めることができるであろう。

(イ) 他者とともに解決方法を考えたり、新たな学びを創ったりすることができるであろう。

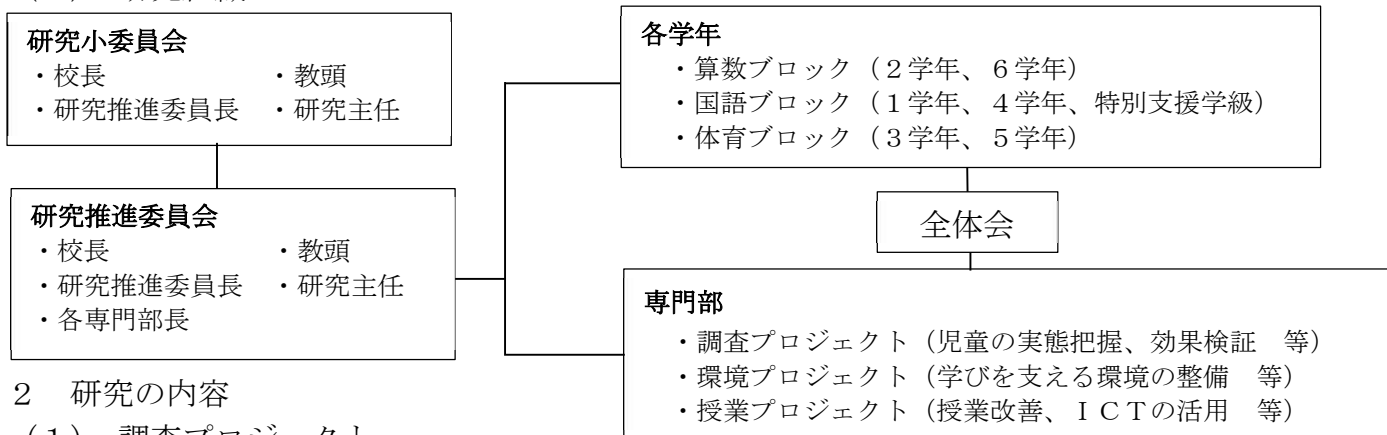
とした。

仮説に迫る手立てとして、次のⅠ～Ⅴとした。

- Ⅰ 必要感のある問いや課題の設定
- Ⅱ 学び方・考え方の選択肢
- Ⅲ 学びを深める学習過程
- Ⅳ ICTの効果的な活用
- Ⅴ 教師の見取りと評価

また、教科を国語科・算数科・体育科の3教科に絞り、それぞれの教科の特性を生かして研究主題に迫っていくこととした。

### (3) 研究組織



## 2 研究の内容

### (1) 調査プロジェクト

本校の研究主題の効果を客観的に検証するために、児童の意識変容を継続的に調査分析する。授業プロジェクト、環境プロジェクトの取組が児童にどのような影響をあたえているかを可視化し、研究の改善に生かす。

#### (ア) 調査の概要

仮説から低学年用（1～3年）用と高学年用（4～6年）用のアンケートの作成・集計・分析

時期	・年2回（1学期初め・2学期末）
アンケートの カテゴリ	・自己肯定感・自己調整学習・学習方法選択・思考力表現力・協働的な学習・ICT活用・学級への適応

#### (イ) 活用サイクル・調査の枠組み



#### (ウ) 調査のカテゴリ



### (2) 環境プロジェクト

(ア) にこにこタイム（動画を使つてのSSTタイム）の実施  
学び合う学習の素地として気持ちのよい学校生活を送るための活動

(イ) 教師の意識として虹のアイス（ユニバーサルデザイン）  
誰に対してもわかりやすい指示の出し方



### (3) 授業プロジェクト

- (ア) 川越市学力向上プラン・中央小授業スタンダードの再確認
- (イ) 個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実に向けての研修
- (ウ) ICTの効果的な活用（系統表の作成）
- (エ) 家庭学習との関り（自主学习カレンダー等の作成）

## 3 実践事例（仮説に対する手立てを中心に）

### (1) 第4学年 国語科：気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう「ごんぎつね」

- (ア) 自分の考えをもたせるための工夫(個別最適な学びに関する工夫)
  - ・必要感のある問いの設定【Ⅰ】
  - ・課題選択学習における「追究の視点」の明確化【Ⅱ】
  - ・学習方法（個に応じたワークシート、ノート）の選択【Ⅱ】
  - ・めあてから振り返りまでの統一した学習の流れ【Ⅲ】
  - ・ICTの活用（「ごんぎつねものしり図鑑」を活用した反転学習）【Ⅳ】
  - ・叙述に即した読み取り（サイドライン、根拠や理由）【Ⅲ、Ⅴ】
- (イ) 学び合いの工夫(協働的な学びに関する工夫)
  - ・協働的な学びの必要感をもたせる話合いの設定【Ⅰ】
  - ・全体、ペア、少人数（三人組）、グループ（等質、異質）の話合い【Ⅲ】
  - ・話合いの視点の提示【Ⅲ】
  - ・ICTの活用（Googleドキュメントを活用した考えの形成、加除修正、比較）【Ⅳ】
- (ウ) 主体的に学習に取り組む学習過程の工夫
  - ・単元で学習したことを活かせる学習過程の工夫【Ⅲ】
  - ・ICTの活用（学習過程の提示）【Ⅳ】
  - ・本単元の学習に関わる掲示物の充実【Ⅱ】



### (2) 第5学年 体育科：「トライへの道を切り拓け！エリアタッチラグビー」

- (ア) 自分の考えをもたせるための工夫（個別最適な学びに関する工夫）  
【振り返りカードの活用】

- ・児童一人一人の課題や役割に応じた個人のめあての設定【Ⅰ】
- ・振り返りによる達成度の確認と次時のめあての決定【Ⅴ】
- ・形成的授業評価による児童の実態把握と個別指導の充実【Ⅴ】

#### (イ) 学び合いの工夫(協働的な学びに関する工夫)

- ・学び合う必要性を感じる教材【Ⅰ】
- ・チームミーティングの設定【Ⅲ】
- ・作戦ボードの活用【Ⅲ】

#### (ウ) 主体的に学習に取り組む学習過程の工夫

- ・チームに合った練習方法の選択【Ⅱ、Ⅲ】
- ・個が活躍できるメインゲームの設定【Ⅲ】
- ・話合いによるルールの決定と解決【Ⅲ】
- ・電子黒板を用いたオリエンテーション【Ⅳ】



### (3) 第6学年 算数科：「データの活用」(算数の学習をしあげよう)

- (ア) 自分の考えをもたせるための工夫(個別最適な学びに関する工夫)
  - ・めあてから振り返りまでの統一した学習の流れ【Ⅲ】

- ・学習方法の選択【Ⅱ】
  - ・全員が自力解決に臨めるよう、既習事項を集めた学習者用コンピュータの活用【Ⅱ、Ⅳ】
  - ・学習者用コンピュータを用いた学びの見取り【Ⅴ】
- (イ) 学び合いの工夫(協働的な学びに関する工夫)
- ・話し合い活動の観点の明確化【Ⅲ】
  - ・思考の構造化【Ⅲ】
- (ウ) 主体的に学習に取り組む学習過程の工夫
- ・興味・関心に応じたコース別学習【Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ】
  - ・電子黒板を用いた思考の過程の提示【Ⅳ】
- (4) 特別支援学級 教科別の指導「国語」：大すきがいっぱい！音どくはっぴょうかいをしよう「ずうっと、ずっと、大すきだよ」
- (ア) 自分の考えをもたせるための工夫(個別最適な学びに関する工夫)
- ・個に応じた選択ワークシート、選択吹き出しの活用【Ⅱ】
  - ・想像を広げるための動作化【Ⅱ】
  - ・自分の気持ちを表す語彙の掲示【Ⅱ】
  - ・意図的な指名【Ⅲ、Ⅴ】
  - ・サイドラインを引き、叙述を基に登場人物の様子を整理する【Ⅲ、Ⅴ】
  - ・掲示物の充実【Ⅳ】
  - ・写真の掲示【Ⅳ】
- (イ) 学び合いの工夫(協働的な学びに関する工夫)
- ・グループ(ペア)、全体での話し合い【Ⅲ】
  - ・児童の発言をつなげる教師のファシリテート【Ⅲ】
  - ・話型の提示【Ⅳ】
- (ウ) 主体的に学習に取り組むための工夫
- ・学習のゴールの見通しをもつ【Ⅰ】
  - ・物語の大体を捉えるための一斉音読【Ⅰ】
  - ・本文を分ち書きにしたプリントの配布【Ⅱ】
  - ・音読している場面を撮影し振り返る【Ⅳ、Ⅴ】



#### 4 研究の成果と課題

##### (1) 成果

- ・個別最適な学びにより、自分に合った学び方で主体的に学ぶ姿が見られるようになり、学力の向上につながった。
- ・友達と学び合うことで、新しい考えを発見したり考えを深めたりするなど、協働的な学びの質的な高まりが見られた。
- ・言語環境を整えたりSSTを定期的に行ったりすることで、友達関係がよりよくなり、安心して学び合う環境となっている。
- ・新体力テストにおいて、ABCの割合が90%以上に増え、体力が向上した。

##### (2) 課題

- ・一人一人の学びを見取り、それぞれの深い学びにつなげていく教師の支援の仕方について研究を深めていきたい。
- ・自己の学びについて振り返ることで、学びを自己調整する力を一層育てていきたい。

# 「進んで思いを伝え合い、協働する芳野っ子の育成」 ～自他のよさを認め合い、高め合える学級活動の実践を通して～

川越市立芳野小学校

## 研究のポイント

- ① 児童の思いや願いを生かした合意形成や実践に向けた教師の助言や支援の在り方についての検討
- ② 自他のよさが実感できる振り返りの視点の設定や活用
- ③ 児童が自信をもって話し合える学級会グッズや事前の活動の工夫

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

- ① 友達や自分の思い、願いを大切に、実現しようとする意欲を高める。
  - ア 提案理由やくらべ合う視点を明確化する。
  - イ 準備や話し合い、実践における教師の助言、支援の在り方を明らかにする。
- ② 児童が自他のよさを実感できるようにする。
  - ア 自他のよさに気付けるような視点を示して振り返りをする。
  - イ 話し合いや実践をとおして教師が児童のよさや努力している様子を紹介したり、共有したりする。
- ③ 進んで思いや願いを伝え合い、実践したりしようとする態度を養う。
  - ア 児童が自信をもって話し合うための環境整備をする。
  - イ 学級会の準備や意見の共有などに関する教師の指導、支援の工夫をする。

### (2) 研究主題設定理由

学級活動（1）の特質である「自発的・自治的活動」は、児童が自ら課題等を見だし、その解決方法・取扱い方法などについての合意形成を図り、協力して目標を達成していくものである。自分たちの手で、楽しく、豊かな学級生活をつくる活動は、児童にとって、やりがいや喜び、満足感を味わえる機会となるもので、学校生活の魅力であり、極めて重要な経験であると考えられる。

本校では、令和5年度に「自他のよさを認め、実感できる学級活動の実践」の主題を設定し、特別活動の研究に取り組んだ。1年間の実践を終えたところで、次の課題が見えてきた。

- ・児童が自ら思いや願いを表現し、実現しようとする意欲を高めること
- ・教師の果たす役割を明らかにする必要があること

そこで、令和6年度からは本研究主題を設定し、さらに研究を進め、実践を積み重ねてきた。成果として、児童が自ら思いを伝え合ったり、話し合ったことを実践する場面で協働したりする姿が見られるようになってきた。この成果を生かし、より多くの児童が自分の思いを伝えられるようになることや、教科や他の領域での授業、学級活動以外の場面でも、積み重ねてきた経験が生かされるようになることを目指し、令和7年度の研究に取り組むこととした。

(3) 研究組織 ※令和6年度同様

2 研究の内容

月	日	研修内容
四月	1	研究推進委員会・研修計画、研修内容等の確認
	2	研修①・年度はじめの学級経営について
	7	研修②・模擬学級会…議題集め、学級会までの準備や話合いの進め方について
	8	家族の願い「こんな〇年生になってほしい」児童の願い「こんな〇年生になりたい」配付 or 回収
	10	研修③・学級目標の設定・学級活動(3)「〇年生になって」
	22	(児童用)学校研究に関するアンケート(第1回)
五月	24	研修④・学校研究アンケートについての考察・4月の学級経営について
	15	研修⑤・モデル授業視聴授業者・研究推進委員、授業者等分担
	22	ブロック協議・ブロックごとの手立て検討
五月	12	研究授業①(全体)学級活動(1)4年西組「“運・どう?会”をしよう」 授業者 岩井奈美枝 指導者 浅見久江校長
	26	研究授業②(全体)学級活動(1)5年西組「友達いっぱいもっとパワーアップ大作戦をしよう」 授業者 折戸俊介 指導者 大澤崇教育センター所長
七月	3	研修⑥6月の研究授業を受けての確認・協議
	9	(児童用)学校研究に関するアンケート(第2回)
八月	22	研修⑦・学校研究に係るグッズ等の確認、補充
	19	芳野小・中学校 校種間連携教育(学級経営)研修会 講師 後藤指導主事(川越市)
九月	11	研修⑧ブロック協議・2学期の計画
	18	研修⑨指導案検討
	22	研究授業③(低ブロック)学級活動(1)2年東組「“わくわく読書チャレンジ”をしよう」 授業者 下口美子 指導者 堀口雪子校長
	29	研究授業④(中ブロック)学級活動(1)3年西組「新しい本と出会おうキャンペーンをしよう」 授業者 馬場優衣 指導者 浅見久江校長
十一月	7	第75次川越市教育研究協議会 発表
	4	研究授業⑤(全体)学級活動(1)南1組・2組「ニコニコみなみっこまつりをしよう」 授業者 佐藤知恵子・丸本達也 指導者 鴨下友恵教諭
	10	研究授業⑥(全体)学級活動(1)6年東組「卒業アルバムのクラスページの内容を決めよう」 授業者 仙石朱里 指導者 大澤崇教育センター所長
	27	研修⑩・研究のまとめについての確認・ブロック協議
十月	4	研修⑪研究のまとめ
	10	(児童用)学校研究に関するアンケート(第3回)

3 実践事例

(1) 学級活動の授業実践

- 1年東組 「あたらしい1年生へのサプライズをかんがえよう」
- 2年東組 「“わくわく読書チャレンジ”をしよう」
- 3年東組 「3東がんばってよかったね会をしよう」
- 3年西組 「新しい本と出会おうキャンペーンをしよう」
- 4年東組 「4東がんばってよかったね会をしよう」
- 4年西組 「“運・どう?会”をしよう」
- 5年東組 「6年生に向けて『心をつなぐ』にしよう会を計画しよう」
- 5年西組 「友達いっぱいもっとパワーアップ大作戦をしよう」
- 6年東組 「卒業を祝う会で感謝の気持ちを伝えよう」
- 6年西組 「芳野小のみんなが喜ぶものを作ろう」
- 南1・2組 「ニコニコみなみっこまつりをしよう」  
「ニコニコみなみっこスポーツ大会をしよう」

### よりよく合意形成するための指導の工夫

- ・話し合いの中心が明確になるように、提案理由を視覚化する。
- ・実践の場面を意識することや、くらべ合う視点について教師が助言する。話し合いが混乱したときや話し合いの内容がそれた際に、教師が臆せず助言する。
- ・多数決での決定に偏らないよう、短冊に理由を書き、話し合うこと①の決定に生かす。

### 話し合いの目的を意識し、自分事としてとらえやすくするための指導の工夫

- ・児童の問題意識や議題に対する関心、期待感や必要感を高める写真やグラフ等の資料を提示する。
- ・イメージを共有するために、話し合いの前に出された意見の内容を確認する。

## (2) 環境整備

### ① 学級会進行シナリオの内容検討、修正

研究授業で度々課題として挙げられてきたのが「まとめる」段階であった。「くらべ合う」段階で賛成・反対を述べ合うのだが、「まとめる」段階で司会からの「どれがいいと思いますか」との問いかけに「〇〇がよいと思います」と、また意見の比べ合いが始まってしまう場面が見られた。

そこで、「まとめる」段階での司会の問いかけを修正した。

(司会) 「どれに決めたらよいと思いますか。」

(発言者) 「〇〇の意見は、(賛成意見が多いことや、提案理由に合っている理由が多いので) 決めてよいと思います。」

(司会) 「Aさんの意見について、何かありますか。」

※反対意見が出れば改善する。他に決めたほうがよいという意見が出たら注目マークを付け、理由や他の条件(実現可能性が高いか等)で考え、確認する。

### ② 意見を生かすマーク「Reまめちゃん」

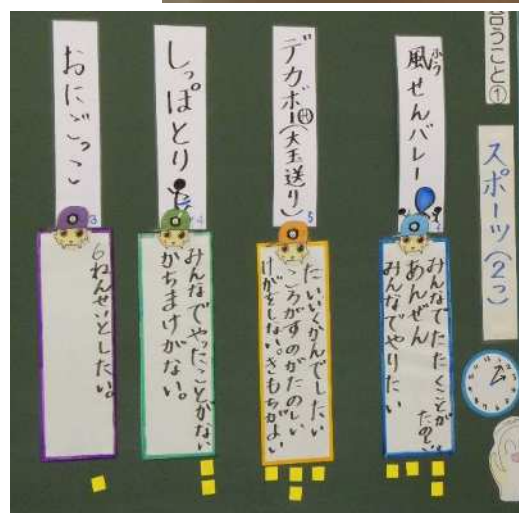
採用にならなかった意見の扱いを明確にするためのマークを作成した。決定マーク同様、意見の上に付けどのように生かすかを共通理解する。係、休み時間に行うこと以外の生かし方が出た場合は書き込んで掲示できるように、何も書かれていないマークも用意した。



### ③ 自分の意見を投影する「〇色まめちゃん」

特別支援学級(南組)では、自分や友達の意見を客観的に捉えることや、意見のよさに着目することができるよう、色の線で囲んだ短冊を用意した。それぞれの短冊に、児童が述べた理由を書き込む。まとめる段階では、例えば「青まめちゃんはみんなでたたくことが楽しいと言っていて、黄色まめちゃんは…」と、教師が出た意見を確認する。

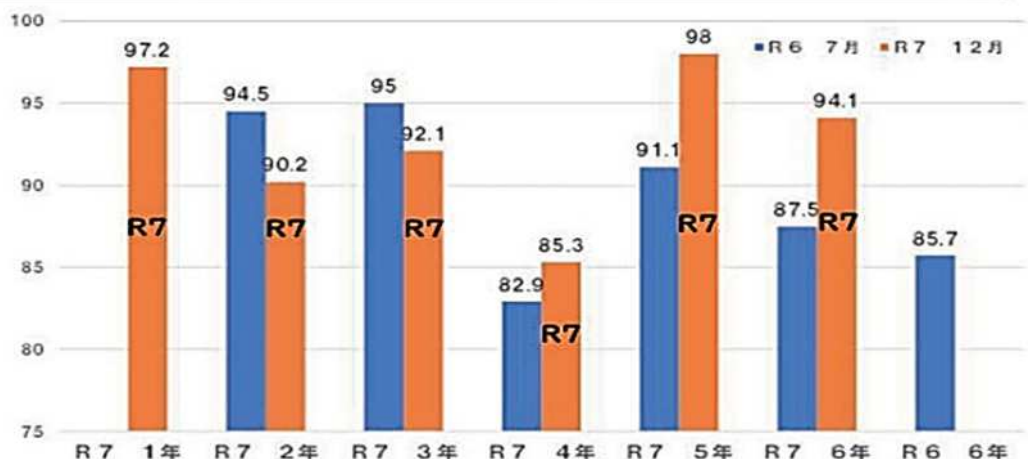
このような話し合いの進め方により、児童が自分の意見に固執せず、反対意見も認めやすい温かな雰囲気醸成されている。



#### 4 研究の成果と課題

##### ○分析部作成のアンケート結果から

自分たちの力で楽しく、過ごしやすい学級、学校生活をつくろうとしていますか。



##### ○埼玉県学力・学習状況調査の結果から

自分にはよいところがあると思いますか。

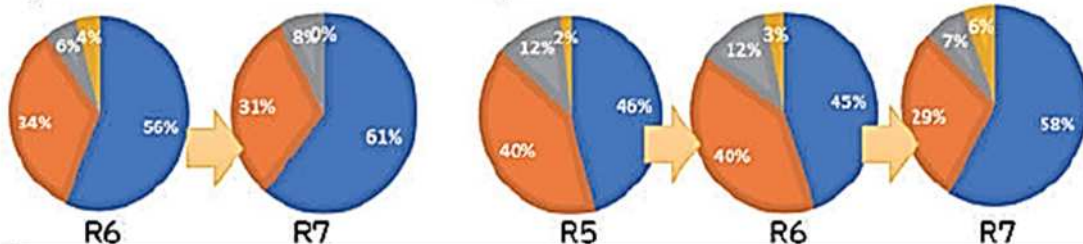
思わない

4 3 2 1

そう思う

5年生

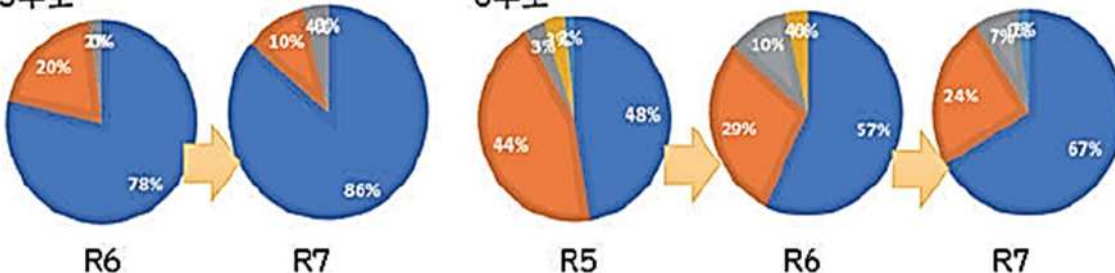
6年生



課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになったか

5年生

6年生



##### (1) 成果

- ・アンケートや、埼玉県学力・学習状況調査の質問紙への回答結果から、自己肯定感に係る質問や話し合いによる課題解決について、肯定的回答の割合が増えていることが分かる。
- ・学級会の進め方について理解が深まり、児童が自信をもって思いや考えを伝え合えるようになり、教師も適切に支援や助言ができるようになってきた。

##### (2) 課題

- ・クラブ活動や児童会活動等に学級活動の経験が少しずつ生かされるようになってきている。しかし、「友達と協働すること」や「自主的に活動に取り組むこと」に課題が残るため、すべての教育活動において、学級活動同様、教職員の共通理解のもと助言や支援を続けていく。
- ・次年度以降も継続して学級活動の実践ができるよう、今年度の取組を整理し、取組の重点化、日常化を図る必要がある。

# 「学習意欲を高め、自分の考えを表現できる児童の育成」

## ～児童の発達段階や実態に応じた算数科指導の工夫～

川越市立寺尾小学校

### 研究のポイント

- 自由選択学習による自己決定・学び合い
- 導入の工夫による学習意欲の向上
- ICTを活用した学び合い
- 全教員参加の指導案検討会と前向きな研究協議会
- 持続可能な学校研究

### 1 研究の概要

#### (1) 研究のねらい

- ・意欲的に学び、生活や学習につなげる児童の育成
- ・自分の考えを表現し、互いの考えを活かす児童の育成
- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けた児童の育成

#### (2) 研究主題設定理由

本校では、学校教育目標「自ら進んで 学ぶ子 仲よくする子 きたえる子」の実現を目指し、日々教育活動に取り組んでいる。

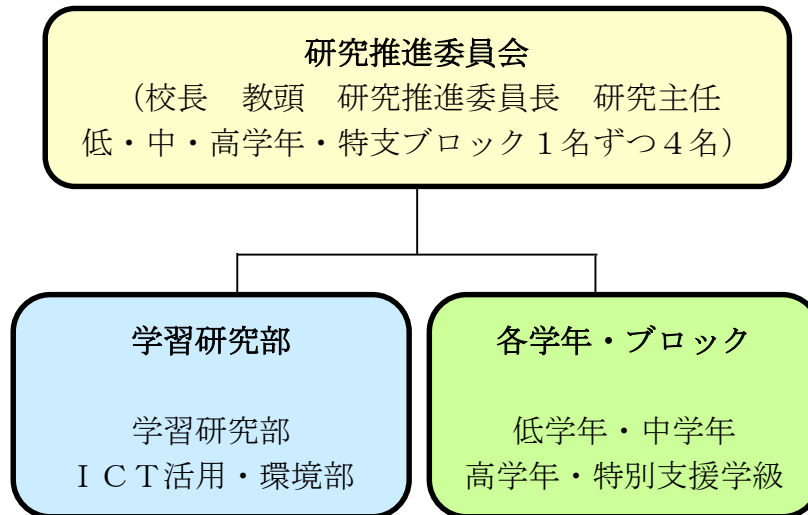
本校の児童の実態として各種学力調査や日々の授業からは次のことが挙げられる。

- ① 埼玉県学力・学習状況調査・全国学力・学習状況調査・入間地区学力調査の結果より
  - ・埼玉県、全国ともに平均よりも5～10%点数は低い。
  - ・記述式の正答率が低い学年がある。
  - ・問題を最後まで解くことができない。(時間配分ができない、粘り強さの欠如)
  - ・児童の勉強に対する意識が低い。(ゲームの時間が長い。)
  - ・基礎的・基本的な知識・技能の欠如している。
- ② 日々の授業、生活より
  - ・個人差が大きい。
  - ・話合いをする前段階の基礎学力がない児童が多い。

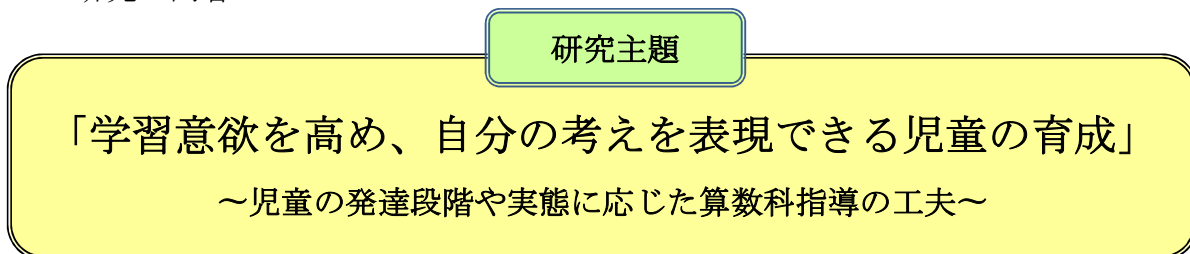
児童の実態把握と教員の願いから、児童の学習意欲の向上(意欲的に取り組める授業)と基礎基本を身に付け、自分の考えをもてる児童を育てたいという目標がたてられた。また、学年により児童の実態が大きく異なることから研究主題・目指す児童像は同じでありながらもそれぞれの学年で児童の様子を考え、手立ては異なるものとしている。

本校では、算数科の学習において、学習意欲を高める工夫を通じて基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける「個別最適な学び」と、自分の考えを表現し、互いの考えを活かす「協働的な学び」を実現することを目指して本研究主題を設定した。

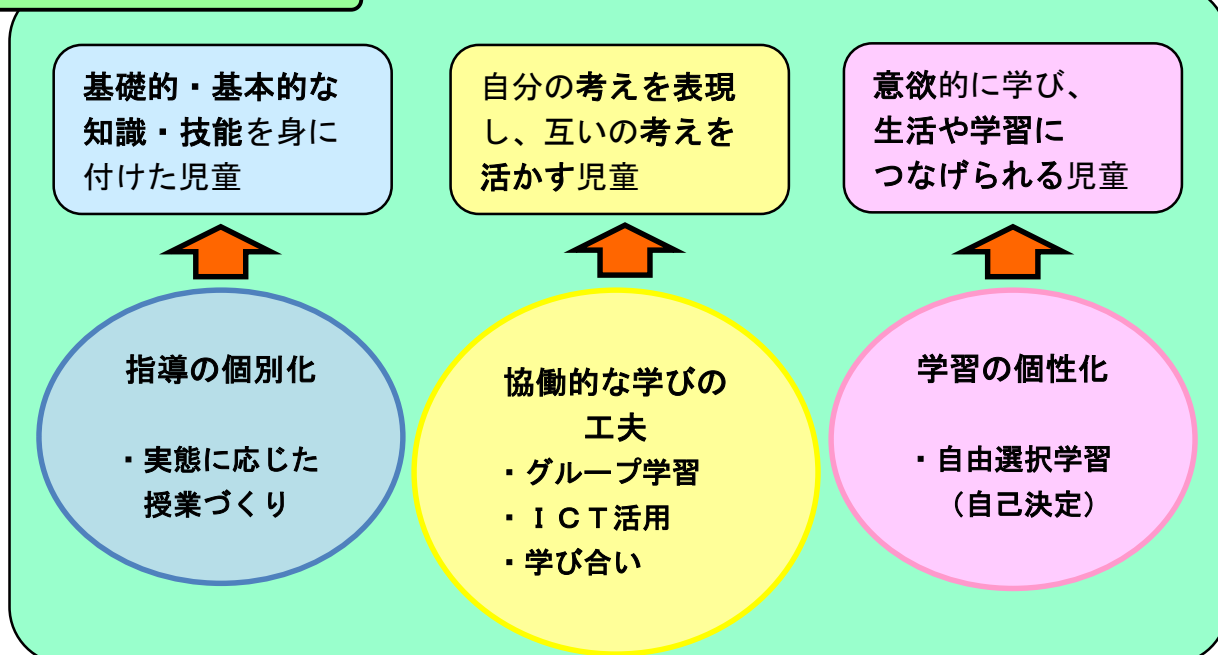
(3) 研究組織



2 研究の内容



目指す児童像 手立て



### 3 実践事例

[手だて]

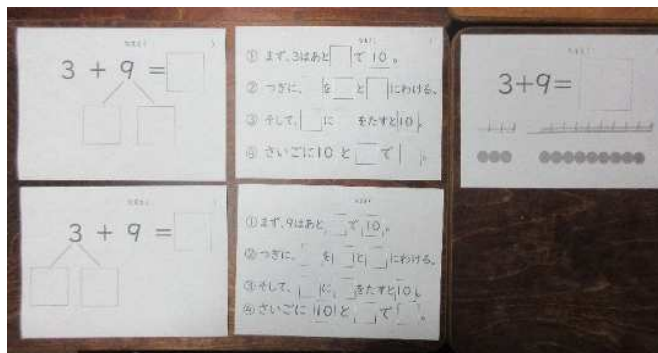
#### 低学年

◎導入の工夫 (2年 かけ算)



問題を解きたくなるような導入の工夫を行った。「隠れている数字を見つけて、ダイヤモンドをゲットしよう☆」

◎自己選択の場の設定 (1年 たし算)



低学年でも、どんな方法で問題を解くか、ヒントカードを自己選択する場面を作った。

[手だて]

#### 中学年

◎導入の工夫 (4年 分数)



導入で同じ分数を見つける神経衰弱 (カードゲーム) を行うことを伝え、ゲームに必要な同じ大きさの分数の見つけ方を課題とした。

◎協働・自己選択の場の設定 (3年 小数のひき算)



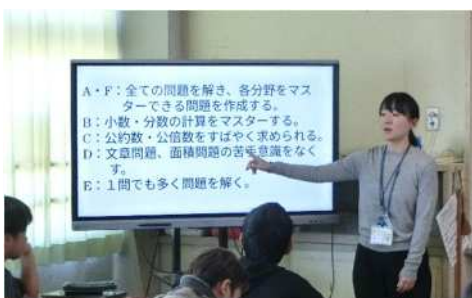
全員で練り上げ・まとめまで行った後、誰とどの問題を解くか自己選択を行い、本時の学習の理解を深めた。



#### 高学年

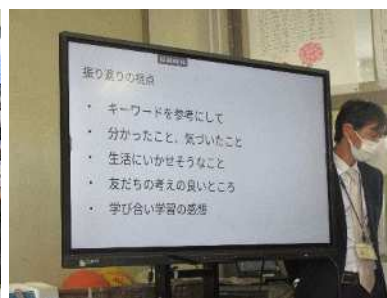
[手だて]

◎自由選択学習 (5年・6年 おぼえているかな) 協働



苦手な部分や忘れてしまっている部分を自分で選択し、自ら学習を調整する力を身に付けられるようにした。

振り返りの視点



振り返りの視点の提示し、確実に時間を確保した。

## ひまわり（特別支援）

[手だて]

◎導入の工夫・自己選択の場の設定（全学年 テラオンランドで算数）

教材の開発

必要感のある協働

自己選択の場の設定



児童にとって意欲の向上が見込まれるワクワクするような教材の開発。「てらおん・遊園地」



目的を設定し、必要感のある協働を生み出した。「〇〇先生のお土産を買おう。」



誰と学ぶか、どの問題を解くか、自分で選択する機会をつくる。

## 4 研究の成果と課題

[低学年]

- 低学年らしく、楽しい問題と雰囲気作りでやる気を引き出すことができた。
- 自分に合った解き方や練習問題を選択することで、自己決定の場面を作り出した。
- ▲低学年での言葉による表現の仕方に難しさを感じた。

[中学年]

- ゲーム性を取り入れたことで児童は意欲的に取り組み、ゲームの中でも教え合う様子が見られた。
- 振り返りから「友達との学び合いにより理解が深まった」と記載が多く見られた。
- ▲練り上げを前半で行い、まとめまで行うことは時間的に難しさを感じた。

[高学年]

- 自分に合った課題や学び方を選択する力を身に付けるには時間が必要だが少しずつ定着が見られた。
- ICTの活用により、他者のまとめを参考にしたり見返したりすることもできた。
- ▲教師は児童同士の学び合いの活性化を意識し、ファシリテーター役に徹する。

[特別支援学級]

- 身近でワクワクする内容や、体験的に授業に参加する教材の工夫により、学習意欲の向上が見られた。
- 目的を設定し、児童にとって必要感のある協働を生み出した。
- 特別支援学級でも誰とどの問題に取り組むか選択しながら学習に取り組むことができた。
- ▲異学年や習熟度の程度などが異なる実態に対して学習場面の設定に難しさを感じた。

## 研究主題

# 学びを楽しみ、自らを高め続ける児童の育成 ～ 挑戦 ～

## 1 研究の概要

川越市立川越第一小学校

### (1) 研究のねらい

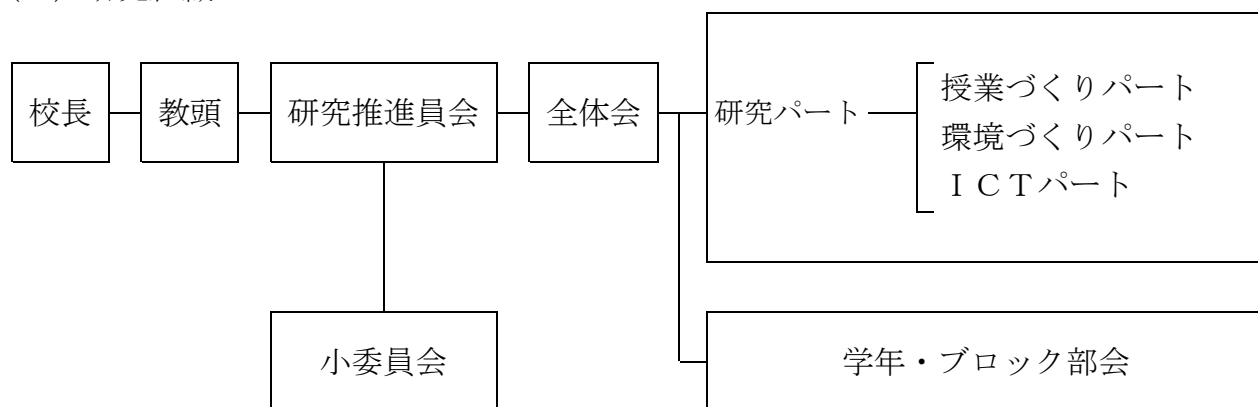
本校では、「四つのだいじ」の理念をもとに教育活動を行っている。四つとは「いのちをだいじに・ひとをだいじに・こころをだいじに・ものをだいじに」である。学習だけでなく、心の教育にも力を入れてきた。

今年度の研究では、非認知能力に着目し、特に重視したのは、子供の思いや願いを起点として学習が展開され、好奇心をもって主体的に取り組む姿である。「自分は学びの主役である」という当事者意識をもって行動することにより、自己効力感が高まり、さらに「やってみよう」と挑戦する意欲につながるのではないかと考えた。非認知能力には多様な要素が含まれるが、その中でも、子供自身が自らの力で学校生活をより豊かなものにしていくために必要な力に焦点を当て、育成することとした。

### (2) 研究主題設定の理由

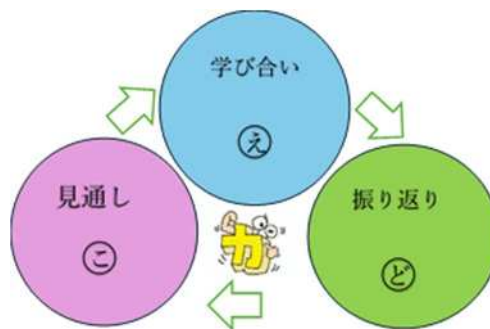
令和7年度埼玉県学力学習状況調査の質問紙より、本校の児童は、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」「自分に自信がある難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」の項目における肯定的回答の割合が低い傾向にあることが明らかとなった。この結果から、児童は失敗を過度に意識し、先を見通して挑戦しようとする力が十分に育成されていない状況にあることが示唆される。また、その背景には、自己有能感や自己肯定感の低さが影響している可能性が考えられる。以上の現状を踏まえ、児童が失敗を学びとして捉え、自信をもって挑戦できるような学習環境や指導の在り方について検討する必要があると考え、上記の主題を設定した。

### (3) 研究組織



## 2 研究の内容

AAR (Anticipation Action Reflection) サイクルを基本とした授業づくりに取り組んだ。これを地域の名称「小江戸」に合わせて「こえど<sup>りょく</sup>力」とした。学習計画を活用し、自分で学習方法等を選択し学びを振り返り、次時の課題設定に活かすことで見通しをもって「こえど<sup>りょく</sup>力」を循環させながら学習に取り組む。子供同士、子供と地域がつながりあって対話する学習環境を整えたことで、子供は問題解決に向けて事象や他者と関わりながら納得解を導き出していた。



### 「こ」 好奇心で開く探究の力

「こ」は、子供が自分自身の興味・関心や「なぜだろう」「もっと知りたい」といった素朴な疑問を出発点として、学びを深めていく力である。自分が本当にやりたいことや問題だと感じていることに向き合い、そこから問いを見いだすことで、学習への主体的な関与が生まれる。さらに、その問いをもとに課題を設定し、どのように調べ、どのように考えていくかといった見通しを立てる過程を通して、探究的に学ぶ姿勢が育まれる。このような学びの積み重ねは、与えられた課題に取り組む学習から、自ら課題を設定して学びを構成する学習へと転換を促し、子供が学びの主役として主体的に行動する力の育成につながる。

### 「え」 遠慮なく話す対話の力

「え」は、互いの考えや思いを率直に伝え合い、対話を通して相互理解を深めていく力である。自分の意見を安心して表明できる場を保障することで、子供は他者の価値観や多様な考え方に触れる機会をもち、視野を広げていく。対話は単なる意見交換にとどまらず、共通の課題や目的を意識した双方向のコミュニケーションとして位置付けられ、問題解決に向けた思考の深化を促す。また、意見が異なる相手とも向き合い、理由や背景を聴き合う経験を重ねることで、感情面も含めた深いレベルでの心のやり取りが可能となる。こうした対話の積み重ねは、他者を尊重しながら自分の考えを形成・更新していく力を育み、協働的な学びやよりよい人間関係の構築につながる。対話で相互理解を深め、他者の価値観を知る機会をもち、問題解決をめざす。

### 「ど」 どんな経験も成長につなげる挑戦の力

「ど」は、正解のない問いや答えが一つに定まらない課題に対しても、自分なりの納得解が得られるまで粘り強く取り組み、試行錯誤を重ねてやり抜く力である。学習や活動の過程で失敗や行き詰まりを経験することもあるが、それらを否定的に捉えるのではなく、次につながる学びの一部として受け止めることが重要である。

さらに、活動後の振り返りを通して、自身の行動や思考の変容を言語化し、その経験に意味付けを行うことで、学びを「自分のもの」として内面化していく。この内面化された経験が自己効力感を高め、挑戦することへの肯定的な認識を育むとともに、次の課題やより高い目標へと向かおうとする意欲を生み出す。こうした循環が、子供一人一人の継続的な成長を支える基盤となると考え取り組んだ。

## 3 実践事例

### (1) カリキュラム・デザインの作成

本研究で求められる教師の役割はダイナミックな学習を提供するプロデューサーであ



## 第6学年 算数「順序よく整理して調べよう」自由進度学習

算数科においては、学習の積み上げ性が高く、理解の速さや定着の程度に個人差が生じやすい。特に6年生では、既習事項をもとにした思考や説明が求められる場面が多く、一斉指導中心の授業では、学習の待ち時間が生じる児童が見受けられた。そこで学習内容は共通としつつ、学習進度を児童自身が調整できる自由進度を導入した。教師は全体への一斉指導を最小限にし、個別に思考の過程を問い返す関わりを行った。

### 【学習環境の工夫】



壁の方を向いて  
1人で黙々と解  
いていく児童



2人組でお互いに考えたこと  
を伝えながら問題を解く児童



学習室でホワイトボード  
を活用して、教え合いな  
がら解く児童

## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ①カリキュラム・デザインを作成することで、授業者の見通しが立った。教科横断的な流れができ、1つの教科だけにとどまらず、他教科にわたる授業の展開を心がけることができた。これは、教師だけにとどまらず、児童にとっては「なりたい自分」を想像できる架け橋ともなった。
- ②様々な教科を行うことで、「こえど力」が多くの場面で活用できることがわかった。
- ③「非認知能力」というテーマがあったので、教科(教科書)を教えるより、教科(教科書)で教えるという意識で授業ができた。(教科で身に付けさせたい力を意識できた)
- ④1つの教科ではなく「非認知能力」をテーマに研究を進めることで、児童の課題となっていた部分を着実に改善することができた。対話を積み重ねてきているからこそ発言方法(指名、自由)なども含めて話し合い活動が活発的で児童主体の学年が多かった。

### (2) 課題

- ①児童から出た疑問や知りたいことなどを中心に単元計画を立て、児童の好奇心を大事にしたい。授業が単発で終わらないよう、他教科とのつながりを重視して実践を進めることができた。今後は、地域・社会との連携をさらに深め、本校が有する人材の豊かさを積極的に活用することで、学びを一層発展させていきたい。そして、子供が自ら学びを広げ、深めながら相互につながっていけるような環境づくりを、今後も継続していくことが求められる。
- ②子供同士の関わりから学びが生まれ、納得解を見いだしていけるように他者とのつながる場をつくる。必要に応じたペア・グループの学習形態や子供同士・大人との対話を通して概念を更新していけるようにしていく。
- ③自分の変容や他と自分との関わりを見つめる振り返りを行うことで、学びの質を深めたい。学習を振り返って経験から見出した価値を見つめられるようにする。自分を見つめる振り返りを続けることで「自分ができるようになった」「自分は成長した」と自信をもちながら成長し、これを次の授業の学びに取り入れていけるようにしたい。
- ④「こえど力」を自分で循環できるようにするために、どのように取り組めばよいか、学び方を自覚することも大切である。見通す段階で「〇〇がポイントだ。」、対話では、「□□のことをさらに聞いてみたい」など、自分で学び方のコツをつかめるようにしたい。

# 「協働的に学びを深める児童の育成」

## ～主体的な伝え合いを通して～

川越市立牛子小学校

### 1 研究の概要

#### (1) 研究のねらい

本校では、児童が自ら考え、友だちと関わりながら学びを深めていく姿の実現を目指している。学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、児童一人一人が学習の当事者として課題に向き合い、自分の考えをもって学習に参加し、他者との対話や協働体験を通じて課題を解決していくことが重要であると考えた。

本研究では、研究主題を「協働的に学びを深める児童の育成～主体的な伝え合いを通して～」と設定し、児童が自分の考えを進んで伝え、友だちの考えを受け止め、つなげながら学びを深めていく姿を目指している。

そのために、各教科の授業において、児童が「伝えたい」「聞きたい」と感じる課題設定や学習活動を工夫するとともに、考えを表現しやすくする手立てや、話し合いを通して考えを深める指導の在り方を明らかにすることを研究のねらいとする。

#### (2) 研究主題設定理由

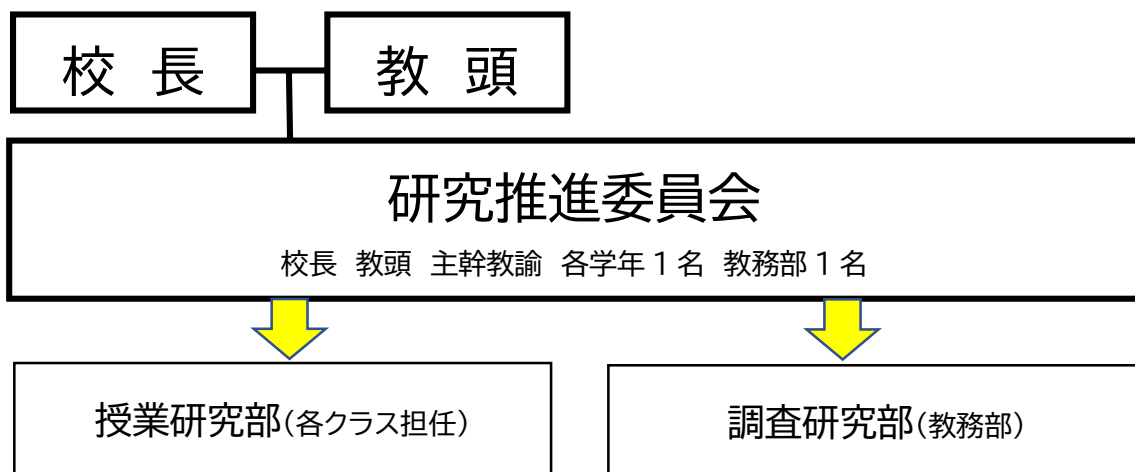
これまでの本校の授業実践を振り返ると、話し合い活動を取り入れていても、発言が一部の児童に偏ったり、意見を発表することが目的化してしまったりする場面が見られた。その結果、友だちの考えを生かして自分の考えを深めるところまで至らないという課題があった。

一方で、自分の考えをもって学習に参加できたときや、友だちの考えに触れて新たな気づきが生まれたときには、児童が意欲的に学び、理解を深めていく姿が見られた。このような姿から、児童同士が関わり合いながら学ぶ「協働的な学び」を充実させることが、学習の質を高めるために重要であると考えた。

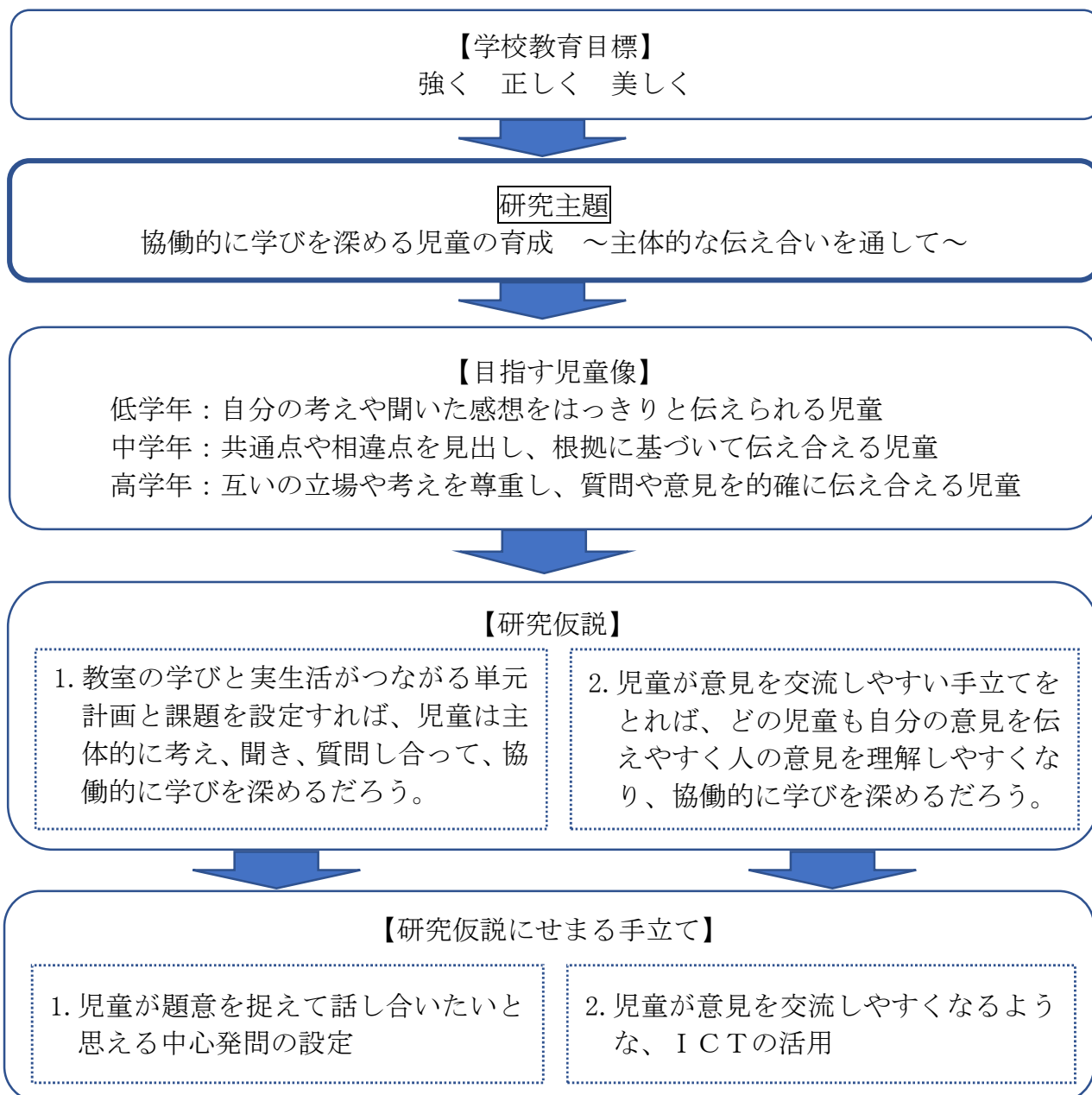
そこで本校では、協働的な学びを支える基盤として、児童が主体的に伝え合う学習活動に着目した。主体的な伝え合いとは、教師に指名されて発言するのではなく、課題解決に向けて自分の考えをもとに進んで伝え、友だちの考えを受け止めながら学びを深めていく姿である。

以上の理由から、本校の研究主題を「協働的に学びを深める児童の育成～主体的な伝え合いを通して～」と設定し、授業実践を通してその具現化を図ることとした。

(3) 研究組織



2 研究の内容 ※研究構想図



### 3 実践事例

1年：国語科「どこがすき？ここがすき！めいばめん 見つけ！（たぬきの糸車）」

2年：図工科「牛子タウンをつくろう（まどをあけたら）」※本時：鑑賞

#### 授業のポイント

- ・美術館案内映像を模したスライドショーでの雰囲気作り
- ・題名当てクイズを行う→「当てたい」の気持ちで意欲の向上→意見交流の活発化
- ・単元初期の造形遊びで、様々な色や形の「窓」を言語化し、どんな建物になりそうか、児童から発想を引き出してから作品作りを行う。
- ・「窓コレクション」を掲示し、児童が自分のイメージを言語化できるようにする。

3年：道徳科「幸福の王子（内容項目 D 感動、畏敬の念）」

4年：国語科「つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう～ミステリーを100倍楽しむ方法～（友情のかべ新聞）」

#### 授業のポイント

- ・児童のワクワク感を大事にした単元名の工夫。「教材を」教えるのではなく、「教材で」教えることを意識した。
- ・前時の振り返りから本時の課題を設定→自分たちの中から出たことが課題になる→主体的な学習
- ・スプレッドシートの共同編集で振り返りを書き溜めた→友達の振り返りを見ることができて、振り返りを書く意欲も質も向上した。



5年：特別活動「もうすぐ6年生－最高学年への『わたしの一步』」

#### 授業のポイント

- ・事前アンケート、事前インタビュー、導入での6年生の写真や動画→考えたい、話したいという意欲向上→主体的な学習
- ・ICTツール（Canva）で各自の考えを可視化＋分析の補助→意見交流の活発化＋考えの広がりや深まりを促す
- ・自己決定した内容を1週間継続→自分の変化の自覚→主体的に伝え合ったことの価値付け



特別支援学級：生活単元「5・6・7組ハロウィンパーティーをしよう」

授業のポイント

- ・前年度のパーティーの写真を見せて、行事についてのイメージをもたせるとともに「自分の衣装を作りたい」という意欲をもたせる。
- ・意図的な班編成→自分の仮想のイメージを共有+作業の仕方を教え合う
- ・個人目標を設定+それに基づいた机間指導→仮装のアイデアをもたせる+他者との関わり（協働）を促す



4 研究の成果と課題

成果

- ・課題解決に向けたグループ活動に関する質問に対して、肯定的回答の割合が増えた。
- ・複数学年、複数教科の授業研究を通して、各教科における課題設定や発問の工夫について理解を深めるとともに、思考ツールや話し合いツールを活用する経験を積むことができた。

課題

- ・学年や教科によって差がある。共通理解を図り実践していく。
- ・教師の意図やねらいが、学習者にとって必然性のある活動目的として捉えられるような学習環境を構成することが重要である。さらなる改善を目指す。

国語

	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したことはありますか。			話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたことはありますか。			授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたことはありますか。		
	昨年度	今年度 1回目	今年度 2回目	昨年度	今年度 1回目	今年度 2回目	昨年度	今年度 1回目	今年度 2回目
1年		66.7%	87.5%		72.5%	62.5%		62.7%	75.0%
2年		82.5%	83.1%		78.9%	78.0%		80.7%	83.1%
3年		81.4%	88.0%		61.0%	84.0%		81.4%	88.0%
4年		91.7%	88.3%		86.7%	78.3%		91.7%	85.0%
5年	90.5%	93.8%	96.9%	74.6%	78.5%	89.2%	82.5%	86.2%	86.2%
6年	100%	95.2%	92.1%	87.5%	83.9%	88.9%	95.8%	80.6%	87.3%

算数

	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したことはありますか。			話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたことはありますか。			授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたことはありますか。		
	昨年度	今年度 1回目	今年度 2回目	昨年度	今年度 1回目	今年度 2回目	昨年度	今年度 1回目	今年度 2回目
1年		84.3%	76.8%		70.6%	67.9%		74.5%	83.9%
2年		84.2%	79.7%		78.9%	81.4%		86.0%	79.7%
3年		72.9%	86.0%		64.4%	84.0%		76.3%	82.0%
4年		80.0%	83.3%		93.3%	80.0%		91.7%	86.7%
5年	84.1%	90.8%	96.9%	77.8%	83.1%	86.2%	87.3%	90.8%	86.2%
6年	91.7%	83.9%	87.3%	87.5%	80.6%	87.3%	91.7%	83.9%	90.5%

肯定的な回答の割合

## 研究主題

「ICTを活用し、川越市小・中学校学力向上プランで目指す

生徒の主体的・協働的で深い学びの実現」

～理解・共有、定着、深化のスパイラルにICTを～

川越市立高階西中学校

### 研究のポイント

- 文字情報を深く解釈し、非言語的なイメージへと翻訳する能力の育成
- AIを活用した学習のまとめ・確認による知識のブラッシュアップ
- ICT機器を活用して、情報を整理し、創造し、共有・協働する能力の育成
- 日本語指導を必要とする生徒への対応のための取組
- 不登校や個別の事情により登校できない生徒と学校をつなぐ取組

## 1 研究の概要

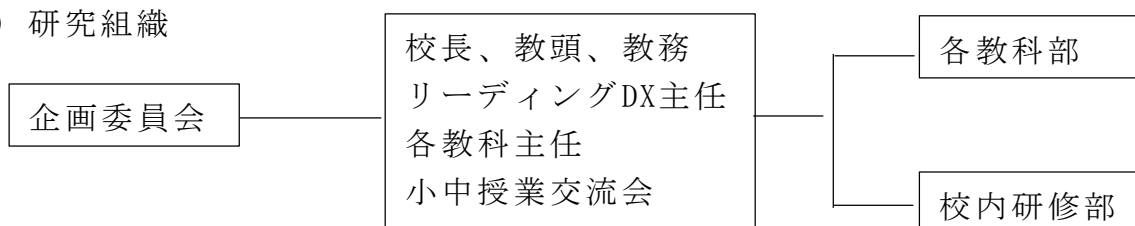
### (1) 研究のねらい

本校は本年文部科学省リーディングDXスクール事業指定校となった。この指定を機に、国を挙げて取り組むGIGAスクール環境を生かし、川越市小・中学生学力向上プランを用いた授業改善として、理解・共有、定着、深化の学習のスパイラルにICTを活用することで、生徒の主体的・協働的で深い学びを実現し、生徒の資質・能力を育成する。

### (2) 研究主題設定理由

本校の生徒は落ち着いて生活することができる。決められたことを忠実に守ることができる真面目な生徒集団である。しかし、生徒自ら課題を見だし、解決に向けて主体的に活動に取り組むこと、自ら考えて行動することに苦手意識があり、『指示待ち集団』であることが本校の大きな課題である。また、埼玉県学力・学習状況調査における本校の平均正答率は各教科とも埼玉県や川越市の平均正答率とほぼ同率であった。この課題を解決し、学力の中間・下位層のボトムアップ、そして上位層のさらなる学力向上を図るために、目指す生徒像をICTを活用し、主体的に学び、授業がわかり、授業が楽しいと実感できる生徒とし、学校経営方針の重点目標とその具現化に『「わ・た・し」の授業の実践』「わ（かる）」「た（のしい）」「し（しゅたいてき）」を掲げ、研究仮説を理解・共有、定着、深化の学習のスパイラルにICTを活用することで、生徒の主体的・協働的で深い学びを実現できるのではないかとした。

### (3) 研究組織



## 2 研究の内容

- (1) AIを活用し文字情報を深く解釈し、非言語的なイメージへと翻訳する能力を高める。
- (2) AIを活用した学習のまとめ・確認による知識をブラッシュアップする。
- (3) ICTを活用して情報を整理・創造し、共有・協働する能力を育成する。
- (4) 日本語指導を必要とする生徒への対応にICTを活用する。
- (5) 不登校や個別の事情により登校できない生徒と学校をつなぐ取組にICTを活用する。

## 3 実践事例

### (1) 国語科研究授業

【教科】国語

【単元】「漢詩の風景」（中学校2年生）

【育成を目指した情報活用能力】

AIを利用してイメージを画像化し、  
批判的思考により言語化する能力の育成

【方法】

- ①「春暁」「絶句」「黄鶴楼にて～」の3つの詩をイメージしやすくするため、教科書の本文の言葉をたよりに生成AIでプロンプトにこだわりながら4コマ漫画を作成する。
- ②起承転結の構成に則ってコマ割りをする。

【育成に向けた指導】

- ・AIは漢詩の特有のニュアンスを誤解しやすいため、生成された画像と自分のイメージを比較・検討し、違いを言語化することが求められることを理解させる。
- ・AIが生成した画像を「鏡」として使い、「自分の解釈（自分軸）との違い」を周囲と話し合うことで、古典への理解を深めさせる。

### (2) 数学科の通年を通した取組

【教科】数学

【単元】年間を通して随時（中学校2、3年生）

【育成を目指した情報活用能力】

情報の整理・比較と知識の再構成による要約力の向上

【方法】

- ①授業終了残り5分で全体の振り返り前に行う。
- ②生成AIによって生成された本日の課題の問題をクイズ形式(4択)で解く。
- ③全体で解答確認を行い、今回の授業とのつながりを確認する。

【育成に向けた指導】

- ・問題（クイズ形式）を回答する際、近くの人に相談したり、ノートを見直したりしてもよい。大切なことはクイズに当たっている、間違っているよりも理解ができているのか、自分が周囲に説明することができるのか（インプット、アウトプットともにできる）、説明はできないが答えを導くことはできるのか（インプットのみできる）、理解が足らず答えが分からないのか、自己評価できる指針として扱うこと。
- ・問題について、授業内容とどのように繋がっているかを考察し、授業にお



いて自らの学びとなったポイントを見つけられるようにすること。

### (3) 自立活動(特別支援学級)の授業

【教科】自立活動

【単元】自分らしく生きるために大切なことはなんだろう(特別支援)

【育成を目指した情報活用能力】

情報を整理し、創造し、共有・協働する能力

【方法】

- ①課題に対しての自分の考えをWeb上に”付箋”として貼り付ける。
- ②自分の考えや他者の考えをWeb上で確認する。
- ③情報の整理を行い、グルーピングをすることで考えをまとめる。

【育成に向けた指導】

- ・考えは複数あってよいので、たくさん出すようにすること。ただし、1つの付箋につき、1つだけとする。
- ・他者の付箋は勝手な移動をしたり、修正したりしない。また、考え方は自由なので批判したり否定したりしない。
- ・なぜ?と感じたことは直接、理由を聞いてみる。



### (4) 日本語指導が必要な生徒に向けた通常授業の学習内容の把握、理解

【教科】全教科

【使用するデジタルサービス】

オンライン翻訳ツール

【取組のねらい】

日本語指導が必要な外国籍の生徒に向けた通常授業の学習内容の把握、理解

【方法】

- ①生徒のGIGA端末でオンライン翻訳ツールを使う。
  - ②日本語から自分が分かる言語に設定させる。
  - ③教師が話す際、マイクボタンを押す。
  - ④翻訳された内容を把握する。
- ※誤変換の可能性があることも事前に伝えておく必要がある
- ⑤必要(上手く音声が取れなかった等)に応じて、先生に挙手してもう一度言ってもらおう。

この文章をネパール語に翻訳して

ご要望いただいた画像(出典:1)の内容をネパール語に翻訳した表を作成しました。  
このセットは、非常食や炊き出し用の「アルファ米」とその製品リストのようです。

सेटको सामग्री (セット内容)	मात्रा संख्या (入数)
अल्फा चामल (アルファ米)	4 किगो (4kg) 1
उभे-सिलो कुप्रीकाके (梅しそふりかけ)	2.5g चाम + 40g चामके (2.5g-50g) 1
मुन (食塩)	4g चामके (40g चाम) (1袋 50g) 1
सान राखे भौरी (弁当容器)	40 वटा (50個) 1
पन्थु (しゃもじ)	4 वटा (1本) 1
सम्रा (スプーン)	4 वटा (50本) 1

【生徒の様子】

日本語が分からないので、何をしたいのか分からないまま、1授業が終わることがないように困ったときに声をかけることができるようになった。生徒の思いが教師側に伝わらないとき、生徒の言語を日本語翻訳することで伝えることもでき、困り感が減った。

### (5) 学習支援室や自宅とのオンライン会議システム、オンライン学習プラットフォーム、クラウドにあるデータの共有

【教科】各教科



### 【使用するデジタルサービス】

クラウドにあるデータの共有、オンライン学習プラットフォーム

### 【取組のねらい】

GIGA端末を活用した家庭での復習・予習の道具としての活用

### 【方法】

- ①GIGA端末を活用し、授業で行った内容等について、クラウドにあるデータで見直してみたり、類題問題(プリントやAIドリル等を活用)を解いたりすることでつまづきを解消する。
- ②GIGA端末を活用し、予習内容を検索、または事前に指示された内容を把握することで次の授業をスムーズに行えるようにする。

### 【生徒の様子】

- ・単元テスト等に向けて、問題プリントと解答がクラウド内にあることで、週末に取り組む生徒が以前より増えた。生徒もプリントだと学校に忘れてしまうこともあるのでクラウド内にあることで助かる様子があった。
- ・予習として、動画コンテンツを見るよりも事前に授業で扱うプリントがクラウド内にあると、予習しやすいという意見もあった。

## 4 研究の成果と課題

### 【成果(○)と課題(●)】

- 授業における成果…教科を問わず、絵・音楽・物語・発展問題などの創作活動に多く活用され、思考の深化と創作活動の活性化、思考の洗練など深掘りされ、個々のイメージを具現化する一助となった。
- 学習意欲と満足度の向上…タブレット上に学習計画を可視化することで見通しがもちやすくなり、生徒の学習への満足度が高まったほか、実験結果に基づいた論理的な考察ができるようになる変化が見られた。
- 授業改善と業務の効率化…本年度の教職員学校評価7「学校は、～生徒の思考力、判断力、表現力の育成のために、授業改善に取り組んでいる。」の項目が100%A評価であった。自由記述欄には「全職員でリーディングDX事業への取組を行えたことで授業改善をすることができた。次年度も継続していく」とあった。また保護者宛文書のたたき台作成、アンケートや行事の反省などの集計・要約に効果を発揮しており、業務の効率化に役立っている。
- 本質的な理解の欠如への懸念…AIが生成したコードの意味や構造を理解せず、結果だけを見て作業を終えてしまう生徒が出る懸念を感じる。これを補うための確認テストなどの工夫が求められる。
- 発達段階に応じた見極め…生成AIの性質を正しく理解し、批判的思考をもって使いこなすには一定の情報リテラシーが必要であり、発達段階に応じた活用場面の吟味が重要である。
- セキュリティと倫理的リスク…個人情報流出、著作権侵害のリスク、偽情報の拡散など、技術的な懸念や透明性に関する課題を、実際にAIを使ってみて実感した。

# 「GIGAスクール環境下における 川越市小・中学生学力向上プランを用いた授業改善」

川越市立高階西小学校  
川越市立高階西中学校

## 研究のポイント

- 令和7年度リーディングDXスクール事業の指定校の取組である。
- 川越市立小・中学校に配備された学習者用コンピュータ（Chromebook）を用いた授業実践である。
- 川越市小・中学生学力向上プランに則り行った授業について小学校6事例、中学校5事例をまとめている。

## 1 研究の概要

### (1) 研究のねらい

川越市小・中学生学力向上プランは、令和5年度からの理解・共有、定着、深化のスパイラルという新たなサイクルに入っている。川越市小・中学生学力向上プランで目指す児童生徒の主体的・協働的で深い学びの実現にはICTの活用が欠かせない。そこで、令和5・6年度リーディングDXスクール事業の実践結果を受け、GIGAスクール環境下における川越市小・中学生学力向上プランを用いたさらなる授業改善を図り、市内小・中学校に周知する事例を開発することをねらいとし、事業実践を行った。

### (2) 研究主題設定理由

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する観点から、令和の時代の文房具としての1人1台端末とクラウド環境を毎日、高い頻度で活用することが求められている。また、本市では「川越市小・中学生学力向上プラン」に基づいて授業を行っている。そこで、「川越市小・中学生学力向上プラン」に則った授業の中で学習者用コンピュータを効果的に活用する授業実践事例を作成することで他の市立小・中学校でも活用できる事例となると考え、本研究主題を設定した。

### (3) 研究組織

令和7年度リーディングDXスクール事業指定校として以下の2校で研究を行った。  
・川越市立高階西小学校 ・川越市立高階西中学校

## 2 研究の内容

以下の点に基づき、実践事例を創出する。

- ・情報活用能力の育成
- ・GIGA×深い学び
- ・GIGA×独自テーマ

### 3 実践事例

#### (1) 情報活用能力の育成

##### ① 【高階西小学校】 小学校低学年からの情報整理・分析能力の育成

児童は生活科におけるおもちゃづくりをする過程で、製作途中の状況を学習者用コンピュータを用いて撮影する。撮影された写真をクラウド上の学習支援サービスにアップロードし、児童間で相互に閲覧可能な状況にする。写真には児童が工夫した点について、児童自身が書き加え、写真を分類する際の参考となるようにする。児童はアップロードされた写真と、自身の制作物を「比較」し、同じテーマや同じ素材で作成されたものを「分類」したうえで、その「相違点」を自身の次の制作活動に生かしていく。



##### ② 【高階西小学校】 複数情報の読み取り可能な資料から読み取った情報の再構成

国語の授業において複数の情報を読み取ることが可能なイラストを児童に共有する。児童はイラストからキャラクターや場所等の創作に必要な情報を読み取り記録する。児童は読み取った情報を再構成し、自身の物語を製作する。その際、児童同士の情報を共有することで他者の視点を取り入れ、個人の作成する物語に対して製作時にはなかった着眼点を取り入れていく。



##### ③ 【高階西中学校】 文字情報を深く解釈し非言語的なイメージへの翻訳

国語の授業において「春暁」「絶句」「黄鶴楼にて～」の3つの詩をイメージしやすくするため、教科書の本文の言葉をたよりに生成AIでプロンプトにこだわりながら4コマ漫画を作成し、起承転結の構成に則ってコマ割りをする。



#### (2) GIGA×深い学び

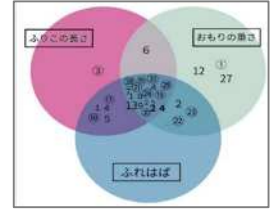
##### ① 【高階西小学校】 小学校第4学年 教科：社会 「先人のはたらき」

複数資料の比較検討を行うため、クラウド上に保存された資料に対して学習者用コンピュータからアクセスする。指導の際は目的意識を持てるよう単元全体の流れについて共通理解を図る。複数の資料から自分の考えをスライドにまとめる。作成中のスライドは全児童が閲覧可能な状態で共有され、児童が自身の考えに似たものや異なるものを参照しながら自分の考えをまとめていく。クラウド上で共有されたスライドに児童が行った分析結果を記載する。考えによって背景色を指定することで立場を明確にする。



② 【高階西小学校】 小学校第5学年 教科：理科 「振り子の性質」

クラウド上で児童が自分の予想を示すことで、誰がどのような考えをもって学習に臨んでいるかを明らかにする。実験や考察においては意図的に異なる立場の意見を交流させていく。クラウド上で共有された各グループの実験結果は、個人のレポートに即時反映する設定を行うことで、学級全体の実験結果をもとに個人のレポートを作成する等、個人と集団の学びが相互に影響できる環境とする。クラウド上で共有された学習の全体計画上に、学習の中で得られた実験結果や考察結果を追記し、学習の過程を明確化する。



3. 結果

ゆりの長さ	おもり	ふれ	ゆりの長さ	おもり	ふれ	ゆりの長さ	おもり	ふれ
20cm	0.9	0.9	1.2	1.2	1.4	1.3	1.2	1.3
40cm	1.2	1.3	1.2	1.4	1.3	1.2	1.3	1.1
60cm	1.5	1.5	1.6	1.5	1.5	1.6	1.5	1.5

20cm: 0.9秒  
40cm: 1.3秒  
60cm: 1.5秒

4. 考察  
予想では、一往復する時間が長さによって変わると思いましたが、結果は、20cm→40cm→60cmと長さを変えると0.9秒→1.3秒→1.5秒となりました。そこから、長さを長くすることで、一往復する時間が長くなることが分かりました。

③ 【高階西小学校】 小学校第6学年 教科：社会科 「天皇を中心とした政治」

クラウド上で必要な資料を共有し、児童の学びに応じて既習事項を確認し、学びを振り返ることができるようにすることで学習が途切れることなく連続性を持ったものとなる。自分の考えを他者も参照できるクラウド上に保存されたスライドでまとめることを通して、自分の考えを明確にするとともに他者の考えに触れることで自らの考えの妥当性を検証する。スライド上のコメントで非同期・非対面の緩やかな協働の時間を確保する。児童は対面・コメントと状況に応じた協働方法を選択する。

④ 【高階西中学校】 中学校第2学年 教科：社会 「東北地方」

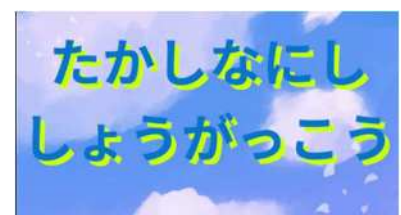
複数資料により情報を予想・比較・検討を行うため、生徒はクラウド上に保存された資料に対して学習者用コンピュータからアクセスする。動画資料も生徒と共有し学習に活かすことができる資料の1つとする。複数の資料から自分の考えをまとめるなかで、作成中の内容はクラスメイトが閲覧可能な状態で共有し、他の生徒の考えの中から生徒が自分の考えに似たものや異なるものを参照しながら考えをまとめられるようにしておく。複数の資料や他者の意見をもとに生徒は自身としての主張・根拠または具体例を論理的にまとめる。

東日本大震災の経験を活かすために 名前		
探究1: 九戸小学校の事例	探究2: 最初の経験について	探究3: 災害(東日本大震災)の教訓を伝える、引きつづ
<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな出来事? 地震が起きた、巨大な津波が押し寄せ多くの命と教職員が犠牲になりました。</li> <li>原因にちがひも認識してしまいましたが、そのおかげで亡くなった人、犠牲者が減りました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんな出来事? 地震が発生し学校の中で待機していたが危ない人が出てきたためすぐに避難しました。さらにその後の自分たちの経験から、今以上に避難し、第三避難所までいった。避難場所が緊急避難所に行きまで押し寄せたので、たまたまたまたまに逃げました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験を通してここで教訓を伝えることで、少しでもこういうことがあっても、命が助かるように心がけてほしい。経験を通して、命を助かるようにしてほしい。</li> </ul>
まとめ 東北地方は九戸小学校の事例や釜石の事例によって災害時の避難の重要性や全避難所が完備し、引き続いていて、様々なことを行って、災害時に避難という目的への対応策を行って東北地方のような思いをしようとしている。		

(3) GIGA×独自テーマ

① 【高階西小学校】 (学校間動画交流) 特別支援学級同士の動画交流会

特別支援学級の合同行事に参加する各校の特別支援学級ごとに学習者用コンピュータを用いて紹介動画を作成する。合同行事に参加する各校の特別支援学級の教員が参加しているGoogleClassroom上で動画を共有し、合同行事前に各校の特別支援学校でそれぞれの動画を視聴し、自身の様子や他校の様子を知る。



- ② 【高階西中学校】不登校等により登校できない生徒と学校をつなぐ取組  
 個々の実態に合った学習の在り方として、教室外（学習支援室等）からのオンライン授業に参加する。授業内で使うプリント等はクラウド上のフォルダによりダウンロードできるようにする。必要に応じて、チャット機能等を活用し、質問等を相互で対応する。



- ③ 【高階西中学校】日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実  
 学習者用コンピュータを活用し、授業で行った内容等について、クラウドにあるデータで見直してみたり、類題問題（プリントやAIドリル等を活用）を解いたりすることでつまづきを解消する。学習者用コンピュータを活用し、予習内容を検索し、または事前に指示された内容を把握することで次の授業をスムーズに行えるようにする。



- ④ 【高階西中学校】日本語指導を必要とする生徒への対応のための取組  
 生徒の学習者用コンピュータでオンライン翻訳ツールを使用し、日本語から自分が分かる言語に設定させる。教師が話す際、マイクボタンを押すことでその場で翻訳し、話の内容を把握する。なお、誤変換の可能性もあることも事前に伝えておくことで円滑なコミュニケーションに繋げていく。

この文章をスピーク機能で読み取ります

ご指定いただいた画像（出典：）の内容をキーボードに翻訳した表を作成しました。  
 このセットは、本装置や読み出し用の「アルファ」とその読みリストのようです。

品名 (セット内容)	価格 (円)
アルファ (アルファ)	4,980 (5kg)
アルファ (アルファ) (別売)	2,980 + 4,980 (2kg・5kg)
アルファ (別売)	1,980 (4kg) (1kg・5kg)
アルファ (別売)	4,980 (5kg)
アルファ (別売)	1,980 (1kg)
アルファ (別売)	4,980 (5kg)

## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

川越市立小・中学校におけるGIGAスクール環境下で学習者用コンピュータ（Chromebook）を使用し、川越市小・中学生学力向上プランに基づいた授業を行うことで、児童生徒が自分の考えを表明し、他者と考えの交流を行うことで、より協働的な学びへとつなげることができた。また、授業以外にも他校との交流や日本語指導、不登校などの教室に入れない児童生徒の学習機会の確保など、学習者用コンピュータを活用することで可能となることが複数挙げられた。さらに日常的な学習者用コンピュータの使用を通じて児童生徒の基本的な操作スキルの向上が見られ、結果的に学習者用コンピュータの使用が円滑となっていった。

### (2) 課題

学習者用コンピュータ（Chromebook）の活用について苦手意識を持つ職員もいることから使用方法や活用事例の継続的な啓発が必要である。また、学習者用コンピュータの活用を目的として授業を組み立てようとする授業本来の目的と外れた授業となることがあった。学習者用コンピュータは非常に効果的な道具ではあるが、そもそも何を目的とした学習なのかを明確にし、学習者用コンピュータの目的に沿った活用という視点を常に意識していく必要があると考えられる。

## 令和7年度 学校安全総合支援事業報告



川越市マスコットキャラクター  
と き も

### 川越市の取組

川越市教育委員会  
川越市立高階小学校  
川越市立高階中学校  
川越市立高階北小学校  
川越市立高階南小学校

## 1 川越市の概要

川越市は、埼玉県の中央部よりやや南部、武蔵野台地の東北端に位置している。人口は35万2千人を超え、平成15年には埼玉県内で初めて中核市に移行した。都心から30キロメートルの首都圏に位置するベッドタウンでありながら、商品作物などを生産する近郊農業、交通の利便性を生かした流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光など、充実した都市機能を有している。尚、市立学校数は小学校32校、中学校22校、特別支援学校1校、高校1校である。

本市の重点施策の一つに、「命を大切にする教育」がある。令和元年度から令和4年度に、本事業の委託を受け、モデル校を指定し研究、実践を行っている。

## 2 川越市の取組について

### (1) 目的

「主体的に行動できる児童生徒の育成を目指す安全教育の推進」

本事業における取組を通して、有事の際に、児童生徒自らが自分の命を守る術を身につけることの他に、自他の命の大切さにも目を向け、自らできることに目を向け、率先して行動できる態度を育成することを目標とした。

### (2) 組織

埼玉県学校安全アドバイザー、市教育委員会、市モデル校、市防災危機管理室各校安全教育主任等（高階消防署、学校運営協議会）

### (3) 実践・取組

(準備) 市立学校長を対象とした「学校における防災に係る研修会」の実施（5月）

- ・川越市防災危機管理室より「災害発生時の市の動き」について
- ・3.11 震災語り部 菅原貞芳氏による体験談（宮城県南三陸町立志津川中学校元校長）

ア 学校安全総合支援事業に係る安全主任会議（4校合同）（7月）

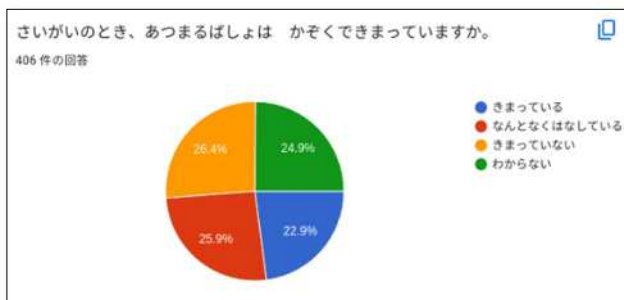
- ・各校の防災教育・安全教育の実態と実施上の課題の意見交換  
校種間連携の視点で、今後の防災教育の在り方について考えた。

イ 市教育委員会によるモデル校（高階小）教職員への防災教育研修会

（8月）

## ウ 高階小学校の実践

### ① 児童への「防災に関するアンケート」実施



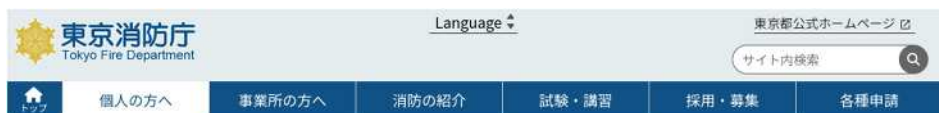
緊急時の避難先について、約51%の児童が決まっていない、分からないと回答。避難場所が明確に決まっていない割合が80%近いことから混乱や動けずに困る児童が出る可能性があるとの課題が見えた。

### ② 高階小学校委嘱研究のテーマ設定（アンケート結果から課題改善へ）

テーマ「子供たちが自分事として捉え、家に帰って広めてくれるような防災学習をしよう」・・・子供・家庭・地域の防災意識を高めるテーマを決めた。

### ③ 小・中学校合同引き渡し訓練

- ・東京消防庁 ビーバーその時、いのちを守るためにB-VR を活用した訓練



リアルにシミュレーションされた首都直下地震を体験できます。



### ④ 消防署連携による防災教育（11月・12月）



煙ハウス体験(3年生)



起震車体験(1・2・4年生)



救命講習応急手当(5年生)

### ⑤ 市内中学生と連携した防災教育（11月）

- ・中学生が講師となり児童へAEDを用いた救急救命体験（6年生）



中学生に救命について教えてもらうことで、小中学校両方の防災意識を高められた。同じ地域に住む中学生だからこそ、もしもあの公園で倒れたら、もしも駅前だったらと具体的な場面を想定して取り組むことができた。

←小中合同救急救命講習(6年生)

- ⑥ 学校運営協議会と共に「防災」について熟議（通年）
  - ・本年度のテーマを「学校安全・学校防災」に設定し、現状や課題、家庭や地域との連携について熟議。地域における防災の取組について情報を共有。
- ⑦ 市防災危機管理室職員と連携し、教職員対象の避難所開設研修（12月）
  - ・体育館での避難所開設の流れと実際 ・ 備蓄庫内の備蓄品を知る



避難所となる学校施設がもつ防災機能について、教職員の理解を深めるきっかけとなった。

この研修会には、高階中、高階北小、高階南小の管理職や教職員も参加した。高階校区全体の防災意識を高める研修会となった。

- ⑧ 高階小学校での今後の取組
  - （児童、地域の防災意識をさらに高め、連帯感を持たせるための取組）
  - ・ 6年生による、防災についての授業（学級活動）の実施
  - ・ 6年生が考える「防災袋」の掲示物作成 →校内掲示や連携校への配布

#### エ 今後の予定

- ① 高階小学校での大木氏を講師とした防災研修の実施（1月27日）

### 3 成果と課題について

- 防災アドバイザーをはじめ、消防署や市防災危機管理室職員等による研修を通し、実際の有事の場面をイメージすることができた。
- 学校安全体制の構築について、高階小学校区内の学校との横のつながりや防災意識の向上につながった。
- 小・中学校連携として、中学生が小学生へAEDの使用法について教える立場を経験したことで、中学生にとっても主体的に防災について考える機会となった。
- 学校運営協議会において「学校安全・学校防災」について熟議を行ったことで、防災に対する家庭の意識や地域防災の取組について把握することにつながり、今後の防災教育における、学校と一部地域との連携を開始するきっかけとなった。
- 今後も学校安全教育について、小・中連携を図り、地域全体で魅力ある防災教育の取組の一層の推進を進めていく。
- 地域の連携については、一部の自治会との連携の模索が開始されたが、今後は成功実績をつくり、他の自治会との連携にもつなげたい。

# 川越市立教育センター

令和8年3月発行

〒350-0001

埼玉県川越市大字古谷上6083-10

TEL (049) 235-7591

FAX (049) 230-1023

